

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月開催
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
- 単元株式数 100株
- 株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社 証券代行部
- (郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部
- (電話照会先) (住所変更等用紙のご請求)
☎ 0120-175-417
(その他のご照会)
☎ 0120-176-417
- (ホームページURL) <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>
- 同 取 次 所 住友信託銀行株式会社 全国各支店
- 上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部
大阪証券取引所市場第一部
- 公 告 方 法 電子公告の方法により行います。
ただし、電子公告によることができない事
故その他のやむを得ない事由が生じた場
合には、日本経済新聞に掲載して行います。

公告掲載URL
<<http://www.ichinenhd.co.jp/>>



株式会社 イチネンホールディングス

〈東証・大証1部コード：9619〉
〒532-8567 大阪市淀川区西中島四丁目10番6号
TEL. 06-6309-1800 (代表)

ICHINEN HOLDINGS

IR REPORT

For comfortable **First** Life

人と社会に、ここちよい安全・安心とやさしい環境を創る。

イチネンの「1=First」は。
新しい時代の先進(一番に・初めて)を拓く**First**であり、
いつも最高級のサービスや製品をお届けする**First**です。
人と社会に、ここちよい安全・安心とやさしい環境を。
今までも。そして、これからも。

第47期 中間報告書

2008年4月1日から2008年9月30日まで

東証・大証1部コード：9619

株式会社 イチネンホールディングス

2008年10月1日、(株)イチネンは

(株)イチネンホールディングスに商号を変更いたしました。

このたび、イチネンは抜本的にグループを再編し、持株会社体制に移行いたしました。

社名をイチネンホールディングスとして株式上場を継続し、グループ全体の経営戦略策定などの機能を担います。傘下の事業会社のうち、自動車関連はワンストップでサービスを提供できるよう集約化を図り、ケミカルやパーキングは自主独立した事業体として運営し、今後ますます多様化・高度化する顧客ニーズに対応してまいります。

株式会社 イチネンホールディングス

株式会社イチネン

- ◆ リース事業
- ◆ 自動車メンテナンス受託事業
- ◆ 燃料販売事業

野村オートリース株式会社

- ◆ リース事業

アルファオートリース株式会社

- ◆ リース事業

株式会社イチネンパーキング

- ◆ パーキング事業

株式会社タイホーコーザイ

- ◆ ケミカル事業

イチネン BP プラネット株式会社

- ◆ 自動車メンテナンス受託事業

株式会社セレクト

わたしたちイチネングループは1969年に他社に先駆け、人と社会と環境とのやさしい関係を創り出す「メンテナンスリース」を掲げてオートリース事業を開始いたしました。以来、自動車メンテナンス業界のリーディングカンパニーとして経営資源や社会資源の有効活用を提案し続けるとともに、環境分野などに事業を拡大し、「リース」「自動車メンテナンス受託」「燃料販売」「ケミカル」「パーキング」の5つの事業を柱に、経営の安定性と利益の拡大を推進する連邦制経営を推進してまいりました。

しかし、今日の世界経済や地球環境を取り巻く状況の変化に対応していくためには、連邦制経営を一步進め、グループ全体の戦略決定機能と、各事業部門の執行機能を明確に分離することが不可欠と判断し、持株会社体制に移行することにいたしました。この新しい組織体制により、これまで以上にグループ一丸となって、「安全・安心」そして「環境」に配慮した付加価値の高い事業とサービスの提供を力強く推進いたします。

新しく歩を進めるイチネンホールディングスにご期待いただき、より一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長 黒田 倅稔
Yukitoshi Kuroda



自動車とエネルギーの分野で、 省エネと環境保全に貢献する 企業を目指します。

Q 当中間期の業績について、お聞かせください。

A 上半期は、ケミカル事業で原料高による利益低下があったものの、それ以外は前期に取引改善を進めたことから順調に推移し、グループ全体として目標を達成することができました。下半期については、ケミカル事業で価格改定を実施することから収益は改善しますので、グループ全体の通期目標は達成できると考えております。

Q イチネンホールディングスに
移行された背景を教えてください。

A わが国の自動車産業は2010年代半ば頃には、ガソリンで走るエンジン車から、燃料電池や電気駆動するモーター車が主流になると予測されています。現在でもハイブリッド車のメンテナンスはメーカーや系列ディーラーが独占していますので、今後モーター車の比率が高まると当社の主力事業である自動車メンテナンス受託や燃料販売は大きな影響を受けてしまいます。そこで、これらに変わる新たな事業の柱を育てていく必要があると考え、グループ全体の方向性や戦略をスピーディーに策定し、事業提携などに機動的に対応できる持株会社体制に移行することにしました。

Q 新たな事業の柱として、
どのような展開をお考えでしょうか。

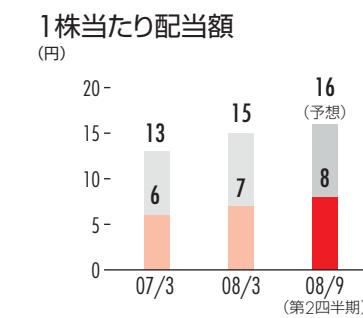
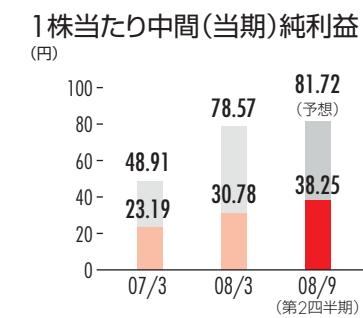
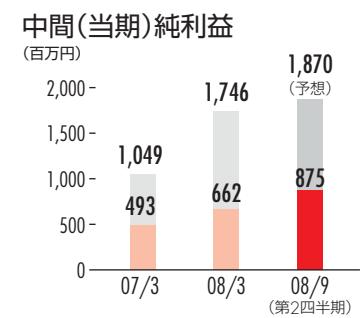
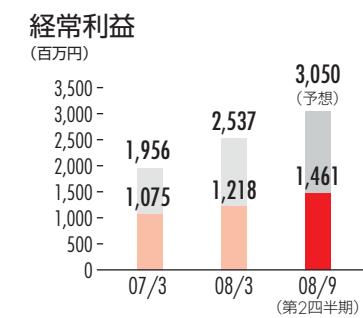
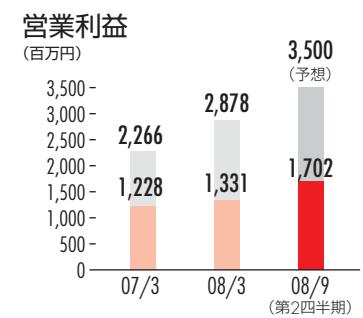
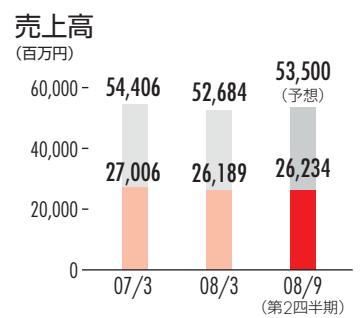
A 自動車関連事業の中で期待しているのがイチネンBPプラネットです。事故などで傷んだ車体の

修理にリサイクル部品を活用しCO₂削減に貢献するという、このサービスは時流に沿った事業として徐々に業績を伸ばしています。

その他にも自動車関連で新たな事業の芽を探す一方、自動車に限らず、節電、節水などエネルギー分野に焦点をあてた新事業の創造にも力を入れる方針です。現在、事業化している製品では、タイホーコーザイの燃料添加剤があります。さらに、バッテリーフォークリフト用の超高速充電器も販売・レンタル体制が整い、大手工場企業の物流部門に採用されるなど、実績があがりつつあります。これらの製品を含む新たな分野を掘り起こし、2015年を目途に事業の柱として育成することで、自動車メンテナンス受託や燃料販売の売上減少分をカバーしていこうと考えています。

当社は昭和40年代の設立当初から約10年刻みで新しい事業を生み出し、育て、事業化してきた経験があり、これからの市場環境変化にも対応できる土壌があります。しっかりと未来を見据え自動車とエネルギーの分野で、省エネと環境保全へ貢献する企業を目指したいと考えています。

財務ハイライト ■ 中間・第2四半期 ■ 通期



Q イチネンホールディングスと
事業会社の役割を教えてください。

A イチネンホールディングスは、グループの最高意思決定機関として全体の戦略策定と、傘下の事業会社の監視・監督を行います。一方、事業会社は業務執行を担い、主な事業会社の社長はホールディングスの役員を兼務します。その他の事業会社の社長も取締役会にオブザーバーとして出席し、全員参加型の経営を推進します。取締役会で決定した事項はグループ全体の方針として徹底しますが、個々の事業については全面的に権限を委譲します。

また、ホールディングスにグループすべての管理部門を集中し、各事業会社は営業に特化して同業他社との熾烈な競争を勝ち抜いていきます。

ただ、同業他社は敵ばかりでなく、互いのメリットがあれば手を組むことも考えられます。現在、オートリース会社との提携や、海外の特許を持つ船舶用燃料添加剤メーカーとの提携交渉が進んでおり、今後も他社との提携やM&A案件を積極的に進めていきたいと考えています。

Q 中期経営計画の進捗状況は
いかがですか。

A 2011年3月期を最終年度とする中期経営計画のスタートである当期の業績は順調に推移しています。来期、再来期の成長エンジンは、タイホーコー



ザイとイチネンパーキングです。タイホーコーザイは新規開拓も順調に進み、販売量増加を見込んでおり、イチネンパーキングは利益率の高い自社物件の駐車場がオープンし、業績向上に大きく貢献するでしょう。さらに、2012年3月期にはイチネンBPプラネットの売上を20億円まで拡大し事業の柱にしていく方針です。

Q 最後に株主様へのメッセージを
お願いします。

A 当社は、つねに地道にコツコツと努力することを信条としており、おかげさまで年々業績を確実に積み上げております。

配当性向も20%を確保しており、業績を伸ばすことで1株あたりの配当向上につなげていきたいと考えております。これからも株主の皆様を裏切らないように、真面目に事業を推進していきますので、ご支援ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

**自動車総合
サービス業を目指して**

株式会社イチネン

代表取締役社長 **黒田 勝彦**
Katsuhiko Kuroda

持株会社であるイチネンホールディングス傘下の事業会社の中で、自動車関連の中核3事業を展開するのが株式会社イチネンです。新しいイチネンは従来のような「リース」「自動車メンテナンス受託」「燃料販売」といった縦割りの組織運営でなく、営業とサービスが一体となりワンストップでサービスを提供できる「自動車総合サービス業」に生まれ変わります。お客様から「自動車に関わることは何でも相談すれば解決してくれる」「イチネンにまかせれば安心」と言っていただけの企業を目指してまいります。

今後とも、常にお客様の立場で考え、お客様満足を徹底追求することが競争に打ち勝つ唯一の道であると信じ、全社員一丸となって取り組んでまいります。そのためには、社長である私が先頭に立って積極的に現場へ足を運び、お客様を訪問し、率直な意見をお聞きしたいと考えております。弊社に対するご意見、ご評価をこれからの経営に反映していく所存ですので、今後とも、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

**グループの中核の
ひとつとして事業を推進**

株式会社イチネンパーキング

代表取締役社長 **黒田 和伸**
Kazunobu Kuroda

イチネングループの新規事業として、2003年7月にパーキング事業を開始して以来、5年が経過し、このたび念願であった新会社として独立いたしました。振り返れば、2003年10月に「One Park」のブランド名で第1号の駐車場をオープンして以来、「駐車場運営のノウハウは現場から得ることができる」との信念のもと、積極的に事業を展開してまいりました。おかげさまで現在では408ヶ所9619台の賃貸駐車場を経営するに至っております。これらの駐車場において大事な土地をまかせていただいたオーナー様の信頼に応えるべく、「安全・安心で利用しやすい駐車場をつくる」の運営方針のもと、きめ細かいサービスを実践してまいります。

また、新たな収益基盤を築くために、長期間運営可能な駐車場として、自社駐車場を大阪市中心部に建設中です。今後とも、「One Park」をご利用いただくお客様にご満足いただけるよう、より一層業務に努めてまいりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

「燃費向上」「メンテナンスの負担軽減」 「環境保護」に貢献する船舶用燃料添加剤

船舶用燃料添加剤で燃費を最大1%向上

船舶用燃料添加剤は、株式会社タイホーコーザイが1953年の創業以来、製造・販売しています。

コンテナ船、タンカー、バルク船（バラ積み船）、自動車運搬船などの大型船の多くは、バンカー重油を燃料として使用しています。バンカー重油とは原油の搾りカスのような燃料で、通常重油より不純物が多く混じっているため、不完全燃焼を起こしやすく燃費が悪いという問題があります。

当社の燃料添加剤をバンカー重油に加えることによって、不完全燃焼を抑えて燃費を向上。エンジンのメンテナンス回数が減少し、SOx（硫黄酸化物）やCO₂などの排出を抑えます。特に燃費向上という点では、テストの結果、最大1%の燃費改善効果が実証されています。年間約2,000～3,000億円もの燃料を消費する大手海運会社にとっては20～30億円を削減できることになり、その効果を認めていただいています。

さらに燃費を向上する新製品を発売予定

昨今の中国や東南アジアを中心とした新造船の増加や、燃料高、船舶による環境汚染規制の強化などにより船舶用燃料添加剤のニーズは今後ますます高まると予想されています。当社では、現在2種類の新燃料添加剤を販売していますが、さらに燃費が向上する新製品を下半期中に発売し、需要獲得を図っていく方針です。また、海外への販売戦略として、上海や香港、シンガポールに自社倉庫を設け現地で船積みできる体制を早急に整備。将来的には海外の海運会社との提携により、世界主要国で製品を供給していきたいと考えています。

タイクラッシュA-38



バンカー重油に含まれる不純物を分散し、不完全燃焼を抑える効果があります。液体にて納入。

タイホーCA



ディーゼルエンジンの排ガスラインに汚れがつかずクリーンな状態に保ちます。固形（顆粒）にて納入し、船に常備されているA重油で溶かして使用していただけます。国内特許取得。国際特許を申請中。



高速で航行し、燃料消費も多いコンテナ船を中心に販売。

新製品のご紹介

ツヤ出しクリーナー400

特徴

- 特殊艶出し剤配合で、しっとりした自然な艶に仕上がります
- べとつきにくく、すべりにくく、サラッと快適
- これ1本でダッシュボードからタイヤ・モール・バンパーまでOK
- あらゆる樹脂パーツに使用でき、便利で経済的
- 被膜がパーツを保護し、劣化防止・ヒビ割れ防止
- 白化を改善し、色・ツヤを復活させます
- 皮膚刺激物質を含まない、体や肌にやさしい抗菌剤+防カビ剤配合（トリガータイプのみ）



イオンコート塗るだけ。

特徴

- 塗るだけで拭き取りいらず固形ワックスのイオンコート
- 独自のイオンコート技術を基礎に製品化
- 今までにない性能を重視した拭き取り不要ワックス
- 性能（光沢・撥水・持続・耐久）が従来品より上回っています
- 塗装にやさしいノーコンパウンドタイプ



クリンビュー 油膜破壊王

特徴

- ガンコなガラガラ油膜をスッキリ落とします
- こびりついたガンコな虫汚れもスッキリ落とします
- 雨で流れ落ちたワックス被膜もスッキリ落とします
- 撥水効果が弱くなったガラスコート剤も落とします
- ガラスコート剤の前処理に最適です
- クリンビューEX等との併用でさらに効果アップ



上記製品取扱販売店

全国カーショップチェーン、オートバックス
今後随時大手カーショップ、ホームセンター量販店にて取り扱い予定

「個人投資家向け 会社説明会」開催

2008年7月16日、東京で初めて個人投資家向けの会社説明会を東京証券取引所ビル6階にて開催いたしました。説明会は、冒頭にイチネングループの事業紹介DVDを上映し、会社概要、連邦制経営、中期経営計画等の説明を行ったあと、質疑応答を行いました。短い時間ではありましたが、投資家の皆様には熱心に耳を傾けていただき、当社の概要についてご理解いただけたと考えております。今後も当社の知名度向上および事業内容を理解していただくために、年1回は東京での説明会を開催したいと考えております。



リース事業

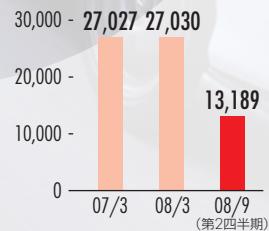
49.8%

リース事業につきましては、引き続き中小口規模の企業をターゲットに投資効率を重視したリース契約の増加に努めてまいりました。また、リース契約満了時における入替促進に注力いたしました。しかし、競合他社との競争激化ならびにリース契約満了時における車両入替が思うように進まなかったことにより、リース契約高は96億59百万円（対前年同期比4.7%減）、リース未経過契約残高は466億93百万円（対前年同期比7.1%減）となりました。

損益面では、低年式・走行過多車両の入替を促進しメンテナンスコストの削減に注力、採算販売の徹底により粗利益率の改善に取り組んでまいりました。また、引き続きリース契約終了後の車両処分が好調に推移いたしました。

この結果、売上高は131億89百万円（対前年同期比2.9%減）、営業利益は9億40百万円（対前年同期比3.9%増）となりました。

売上高の推移 (百万円)



事業紹介

自動車保有による負担を軽減するオートリースを軸とし、顧客のニーズや環境保全の視点を取り入れ、幅広いサービスを提供しています。また環境保全の取り組みが重要視されるなか、省エネにつながる「超高速充電器」の販売・レンタルも実施しています。

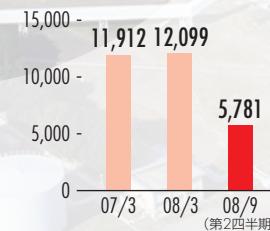
ケミカル事業

21.8%

ケミカル事業につきましては、引き続き原燃料価格高騰の影響を受け、製品原材料等の仕入れ価格上昇により、主力製品である燃料添加剤等の工業薬品関連薬剤を始め、化学品にも大きな影響を及ぼしております。このような状況下で、製品価格の是正、また合理化・効率化によるコストダウンにも取り組んでまいりましたが、進展は厳しいものとなりました。しかし一方では、海運関係への船舶用燃料添加剤等が引き続き順調な伸びを示しており、今後に明るい材料も見えております。

この結果、売上高は57億81百万円（対前年同期比3.3%減）、営業利益は2億65百万円（対前年同期比28.2%減）となりました。

売上高の推移 (百万円)



事業紹介

産業機械や自動車のメンテナンスに欠かせないケミカル製品を多彩にラインナップしています。また、各種ボイラやディーゼルエンジンの省エネに貢献する添加剤など、さまざまなテクノケミカル製品もご提供しています。



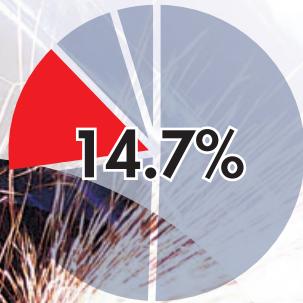
自動車メンテナンス受託事業

自動車メンテナンス受託事業につきましては、メンテナンス契約の量から質への転換を図り、メンテナンスコストの増加要因となる低年式・走行過多車両の入替えを促進しメンテナンスコストの抑制に注力し、不採算契約の改善ならびに走行距離に応じた料金設定を行い収益向上に努めてまいりました。この結果、メンテナンス受託契約高は23億24百万円（対前年同期比11.0%減）、メンテナンス未経過契約残高は73億29百万円（対前年同期比3.1%減）となりました。

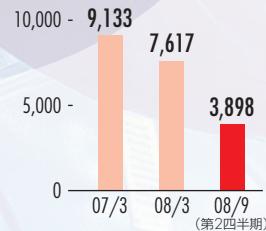
損益面では、前期に実施しました不採算取引先からの撤退、取引条件の見直しにより粗利益率が改善いたしました。

この結果、売上高は38億98百万円（対前年同期比3.7%増）、営業利益は2億41百万円（対前年同期比40.7%増）となりました。

なお、2008年8月1日付で自動車整備工場の経営を行っておりました当社100%子会社である株式会社カーライフ・イチネンの全ての株式を売却いたしました。



売上高の推移 (百万円)



事業紹介

自動車の走行距離に合わせた保守整備や点検情報の集中管理、「動くメンテナンス工場・巡回サービスカー」など、きめ細やかなサービスを実施しています。また、環境に配慮した車体修理事業をイチネンBPプラネットで展開しています。

燃料販売事業

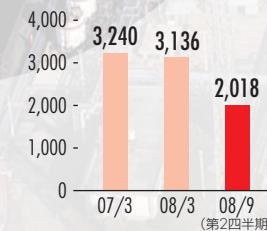
燃料販売事業につきましては、主力である自動車用燃料給油カードは、付加価値の高いサービスを顧客に提供し他社との差別化を図ることにより新規顧客獲得に注力いたしました。この結果、ガソリン価格高騰によりガソリン消費量が減少している状況のなか、自動車用燃料給油カードによるガソリン等の販売数量は前年同期比15%増となりました。

損益面では、2008年4月より仕入れ価格上昇時における販売価格への転嫁遅れを解消する目的で、元売りと仕入価格決定方式を変更しました。この変更により当第2四半期連結累計期間の粗利益率は大幅に改善いたしました。また、販売費及び一般管理費の削減にも注力いたしました。

この結果、売上高は20億18百万円（対前年同期比37.1%増）、営業利益は2億16百万円（前年同期は26百万円の営業損失）となりました。



売上高の推移 (百万円)



事業紹介

全国の各サービスステーションで給油できる「エクソンモービル・コーポレートカード」を販売。イチネンならではのスケールメリットで全国統一価格を実現し、燃料代削減に貢献します。また、燃料代の一括管理により経理事務合理化もサポートします。



パーキング事業

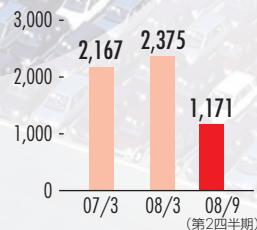
4.4%

パーキング事業につきましては、中長期的に安定した収益基盤を築くため、更なる駐車場の拡大と引き続き不採算駐車場の採算改善を行い駐車場個々の収益向上に努めてまいりました。しかし、前期下半期より実施しております不採算駐車場からの解約による撤退で2008年9月末現在駐車場管理件数は408件（対前年同期比46件減）、管理台数は9,619台（対前年同期比823台減）となりました。

損益面では、前期下半期より実施しております不採算駐車場の契約内容の見直し、解約撤退による採算改善を行ったことにより、当第2四半期連結累計期間におけるパーキング事業の粗利益率は改善しました。しかし、ガソリン価格の高騰に伴う自動車利用の抑制や自社物件の駐車場設備の建設着工により一時的に駐車場の稼働率が低下したことにより損益面では厳しいものとなりました。

この結果、売上高は11億71百万円（対前年同期比1.5%減）、営業損失は31百万円（前年同期は90百万円の営業損失）となりました。

売上高の推移 (百万円)



事業紹介

土地の有効活用を目的としたパーキング「One Park」だけでなく、店舗や商業施設、病院に付帯した駐車場にも積極的に取り組み、土地オーナー様やドライバーの皆様にご安心で快適なサービスをご提供しています。

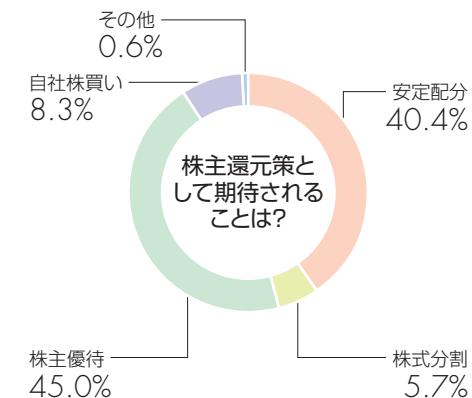
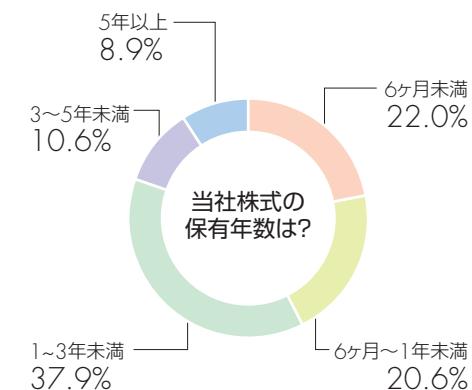


アンケート結果のご報告

第46期年次報告書でお願いいたしましたアンケートには557名にもものぼる皆様からご回答をいただき、厚く御礼申し上げます。アンケート結果のご報告として、寄せられた当社に対するご意見、ご希望の中からそのお声の一端をご紹介します。今後も株主の皆様への積極的な開示を行い、コミュニケーションを深めより当社をご理解いただけるよう努めてまいります。

○ ありがたいお声を数々いただいております。期待以上を常に目指していきます。○

- ◆ IR活動に積極的で好感が持てます。大阪地元企業ですので応援したいです。
- ◆ IRを積極的に行うことにより、知名度向上と共に株価UPが図られると思うので、頑張ってください。長く保有して応援するつもりです。
- ◆ いろんな事業があることがわかりました。ケミカル事業の将来性は大きそうなので、海外を含めた着実な収益拡大に向けた施策をお願いします。
- ◆ お米券をお届け戴きまして、誠にありがとうございました。IRで貴社の経営状況が大変分かりやすく理解出来ました。これからも、品格ある企業として、現経営方針で順調に益々の利益向上を願っています。
- ◆ 株価が低迷しておりますが、配当も他株に負けずがんばってほしい。株主優待にも期待しております。
- ◆ 市場環境が厳しい中、経営努力が伺えます。持株会社イチネンホールディングスに大いに期待しています。益々の御発展を御祈念致します。
- ◆ 社長の熱意に大変期待しています。長期保有用の株主優待を拡充してほしいと思います。
- ◆ 先日の総会に参加させて頂きましたが、これからが楽しみな企業さんだと思いました。心斎橋の駐車場が出来ましたら、また利用させて頂きたいと思います。



中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前中間期 2007年9月30日現在	当中間期 2008年9月30日現在	前期 2008年3月31日現在
【資産の部】			
流動資産	14,687	14,831	14,017
現金及び預金	1,034	1,308	1,533
受取手形及び売掛金	6,733	6,946	6,464
リース・メンテナンス等未収入金	2,298	2,198	2,236
その他	4,620	4,378	3,782
固定資産	60,237	63,036	64,792
有形固定資産	46,497	50,576	51,364
リース資産	37,339	34,838	35,591
建物及び構築物	2,457	2,104	2,231
土地	4,981	12,352	12,487
その他	1,719	1,280	1,054
無形固定資産	7,750	7,071	7,347
のれん	6,963	6,309	6,636
その他	786	761	710
投資その他の資産	5,989	5,388	6,081
投資有価証券	2,182	1,803	1,727
その他	3,806	3,585	4,353
繰延資産	58	62	48
資産合計	74,983	77,930	78,859

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

【負債・純資産の部】

	前中間期 2007年9月30日現在	当中間期 2008年9月30日現在	前期 2008年3月31日現在
流動負債	35,529	37,487	37,746
支払手形及び買掛金	6,990	7,487	6,965
短期借入金	15,504	22,996	18,233
コマーシャル・ペーパー	4,000	-	3,200
1年以内償還予定の社債	4,250	2,720	4,240
リース・メンテナンス等前受金	3,237	2,552	2,928
その他	1,546	1,730	2,179
固定負債	27,932	27,749	29,015
社債	7,080	7,360	5,960
長期借入金	19,480	19,310	21,989
その他	1,371	1,078	1,065
負債合計	63,462	65,237	66,762
株主資本	11,501	12,891	12,256
資本金	2,122	2,139	2,126
資本剰余金	4,263	4,280	4,267
利益剰余金	5,402	7,016	6,324
自己株式	△ 286	△ 544	△ 460
評価・換算差額等	19	△ 202	△ 162
その他有価証券評価差額金	19	△ 202	△ 162
新株予約権	-	4	2
少数株主持分	-	-	-
純資産合計	11,520	12,693	12,096
負債純資産合計	74,983	77,930	78,859

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

	前中間期 2007年4月1日から 2007年9月30日まで	当中間期 2008年4月1日から 2008年9月30日まで	前期 2007年4月1日から 2008年3月31日まで
売上高	26,189	26,234	52,684
売上原価	20,022	19,635	40,217
売上総利益	6,166	6,598	12,466
販売費及び一般管理費	4,835	4,895	9,588
営業利益	1,331	1,702	2,878
営業外収益	97	93	159
営業外費用	210	334	500
経常利益	1,218	1,461	2,537
特別利益	251	38	294
特別損失	296	140	730
税金等調整前当期純利益	1,174	1,359	2,101
法人税、住民税及び事業税	220	564	751
法人税等調整額	127	△ 80	△ 559
少数株主利益	162	-	162
中間（当期）純利益	662	875	1,746

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間期 2007年4月1日から 2007年9月30日まで	当中間期 2008年4月1日から 2008年9月30日まで	前期 2007年4月1日から 2008年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,145	1,895	5,766
税金等調整前当期純利益	1,174	1,359	2,101
減価償却費	7,508	7,120	14,934
売上債権の増減額	△ 345	△ 501	△ 76
リース資産の純増加額	△ 5,789	△ 6,074	△ 11,149
仕入債務の増減額	△ 804	532	△ 829
法人税等の支払額	△ 242	△ 631	△ 400
その他	△ 355	90	1,186
投資活動によるキャッシュ・フロー	41	△ 606	△ 7,057
有形無形固定資産の取得による支出	△ 311	△ 623	△ 8,384
投資有価証券の取得による支出	△ 11	△ 203	△ 21
その他	363	221	1,348
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,292	△ 1,514	683
社債・借入金の増減額	△ 1,304	△ 1,256	2,003
配当金の支払額	△ 151	△ 183	△ 314
その他	△ 835	△ 74	△ 1,005
現金及び現金同等物の増減額	△ 1,105	△ 224	△ 607
現金及び現金同等物期首残高	2,140	1,533	2,140
連結範囲の変更による現金及び現金同等物の増減額	-	-	-
現金及び現金同等物期末残高	1,034	1,308	1,533

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

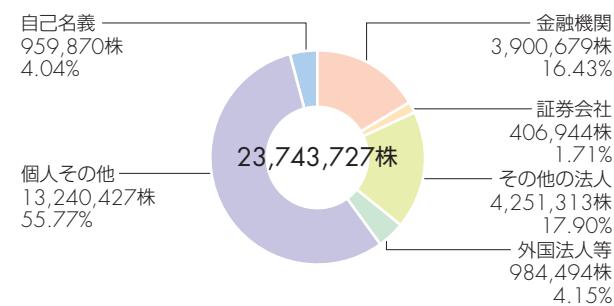
株式の総数 (2008年9月30日現在)

発行可能株式総数 80,000,000株
 発行済株式の総数 23,743,727株
 株主数 5,644名
 大株主

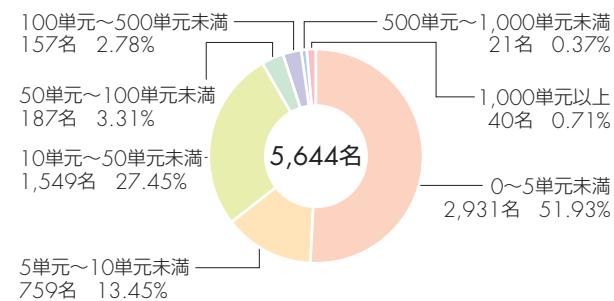
株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
第一燃料株式会社	2,360,000	9.94
住友信託銀行株式会社	820,000	3.45
黒田 雅 史	728,100	3.07
黒田 和 伸	654,100	2.75
黒田 勝 彦	602,100	2.54
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	486,500	2.05
黒田 恭 年	486,016	2.05
日本マスタートラスト信託 銀行株式会社(信託口)	457,900	1.93
黒田 倅 稔	442,000	1.86
黒田 哲 也	442,000	1.86

※自己株式 959,870株保有(上記表より除外)

所有者別株式分布



所有単元数別株主分布



会社概要 (2008年10月1日現在)

商 号 株式会社イチネンホールディングス
 (ICHINEN HOLDINGS CO.,LTD.)
 U R L http://www.ichinenhd.co.jp/
 本店所在地 大阪市淀川区西中島四丁目10番6号
 創 業 1930年(昭和5年)6月1日
 会 社 設 立 1963年(昭和38年)5月7日
 資 本 金 2,139,350,586円
 従 業 員 数 連結624名

取締役及び監査役 (2008年10月1日現在)

代表取締役社長	黒 田 倅 稔
代表取締役副社長	黒 田 雅 史
取締役副社長	黒 田 勝 彦
取締役 常務執行役員	三 村 一 雄
取 締 役	影 山 忠 広
取 締 役	灰 本 栄 三
取 締 役	浅 井 和 良
常 勤 監 査 役	奥 田 純 伸
常 勤 監 査 役	川 上 弘 信
監 査 役	岸 野 信 雄

グループ会社

株式会社イチネン
 株式会社イチネンパーキング
 株式会社タイホーコーザイ
 イチネンBPプラネット株式会社
 株式会社セレクト
 野村オートリース株式会社
 アルファオートリース株式会社

ホームページのご案内

当社のホームページで最新情報を発信しております。
 ぜひ併せてご覧ください。

<http://www.ichinenhd.co.jp/>

イチネンホールディングス

TOPページ



IRサイトの一部



中期経営計画



財務情報

株主優待情報

割当基準日/3月末日においての持株数に対して
 右記の内容のお米券を進呈いたします。



持 株	内 容
100株以上 500株未満	全国共通おこめ券 2kg
500株以上 2,000株未満	全国共通おこめ券 5kg
2,000株以上	全国共通おこめ券 10kg